

H27-B-2 深度120.63~120.65m 最新活動面の位置 (No.最-27) を変更

- 変更後の最新活動面認定方法によると、H27-B-2 深度120.63~120.65m の破碎部における最新活動面は120.65mの幅狭いオリブ灰色部の上端の断層面であるため変更した。

H27-B-2 深度120.63~120.65m ボーリングコア観察 断層面の認定

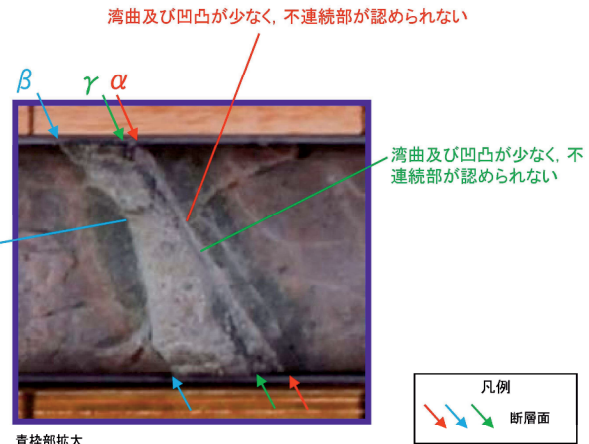
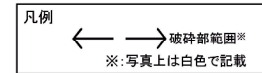
- ボーリングコア観察において、深度120.63m(上端)に断層面βが、深度120.65m(下端)に断層面αが認められる。
- 断層面αの上盤側には厚さ1~3mmでオリブ灰色の粘土状部が分布し、上端に断層面γが認められる。
- 断層面αとγは共に、湾曲及び凹凸が少なく直線性に富む。また、境界に不連続部が認められず、連続性に富む。
- 断層面βは、湾曲及び凹凸にやや富んで直線性に乏しい。また、不連続部が認められず、連続性に富む。

コア写真



ボーリング柱状図

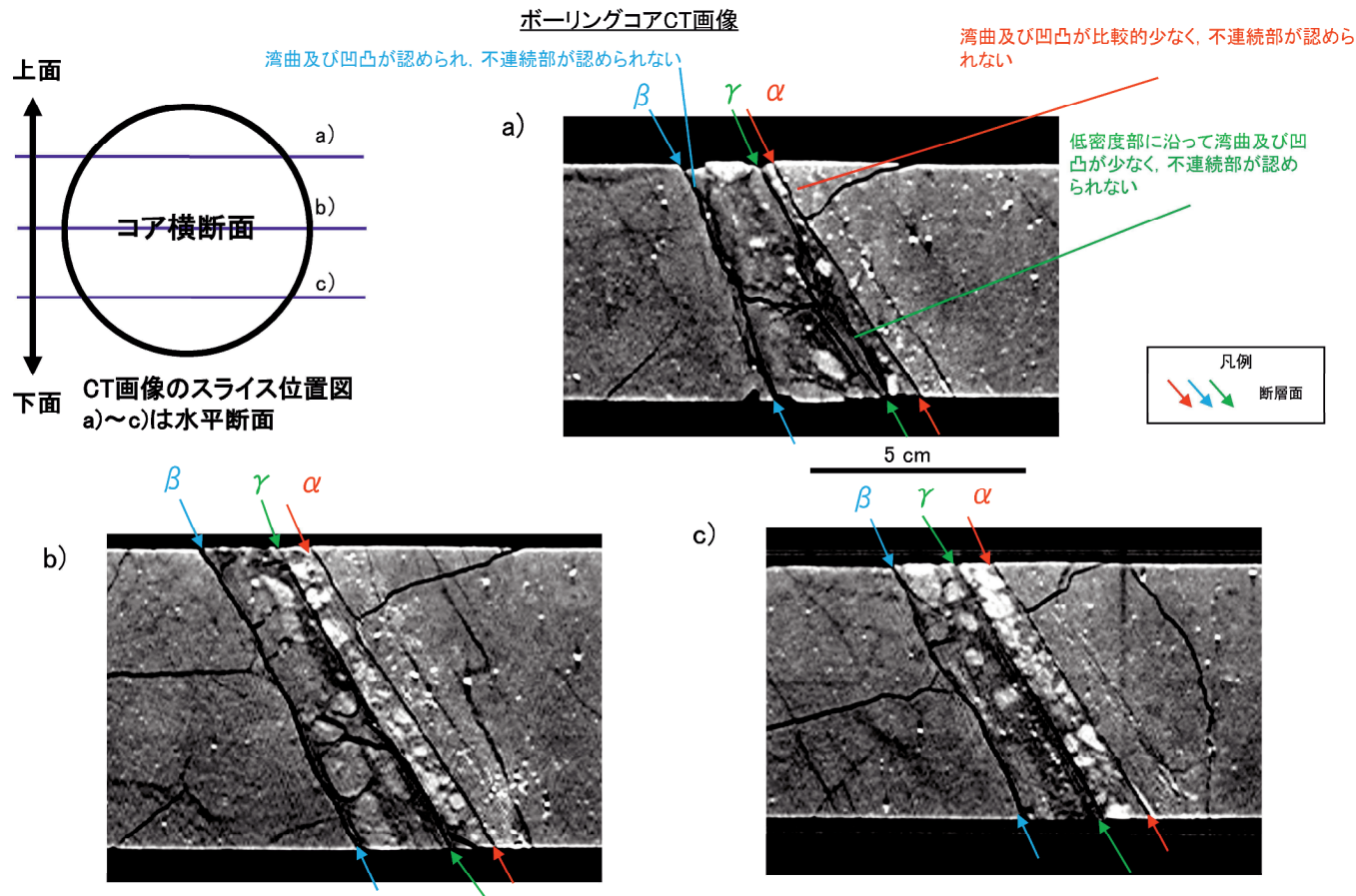
- 120.63~120.65m: 破碎部
- 120.63~120.65m: 粘土質礫状部 (Hb)
- 上端12~32°で湾曲して、下端32°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの岩片を計20%程度含む。やや軟質。オリブ灰色を呈する。幅15~25mm。
- 120.65m: 粘土状部 (Hc-1)
- 傾斜32°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない。軟質。オリブ灰色を呈する。幅1~3mm。



H27-B-2 深度120.63~120.65m 最新活動面の位置 (No.最-27) を変更

H27-B-2 深度120.63~120.65m CT画像観察 断層面の認定

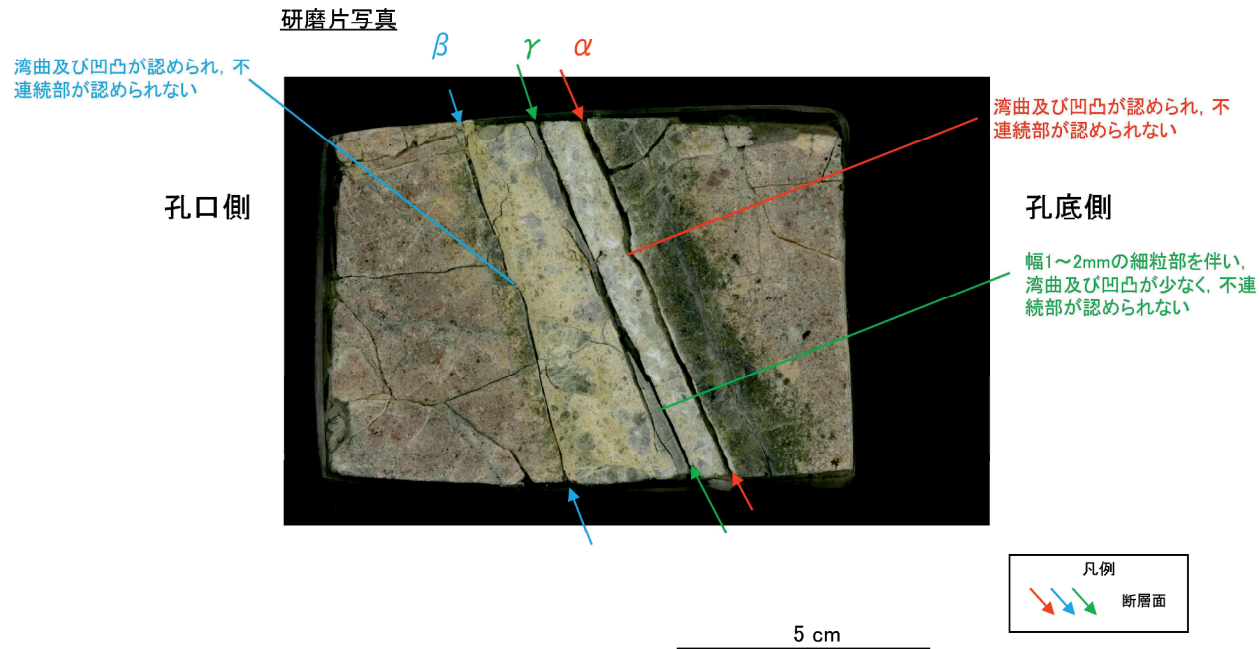
- ・CT画像観察において、ボーリングコア観察で認められた断層面 α 、断層面 β 、及び断層面 γ が認められる。
- ・断層面 α は三次元的に他の構造に切られておらず、比較的密度が低い部分の下端境界で湾曲及び凹凸がやや認められ、直線性に乏しく、不連続部が認められず連続性に富む。
- ・断層面 β は三次元的に他の構造に切られておらず、比較的密度が低い部分の上端境界で、湾曲及び凹凸が認められ、直線性に乏しいが、連続性に富む。
- ・断層面 γ は三次元的に他の構造に切られておらず、最も低密度なゾーンに沿って、直線性に富み、連続性に富む。



H27-B-2 深度120.63~120.65m 最新活動面の位置 (No.最-27) を変更

H27-B-2 深度120.63~120.65m 研磨片観察 断層面の認定

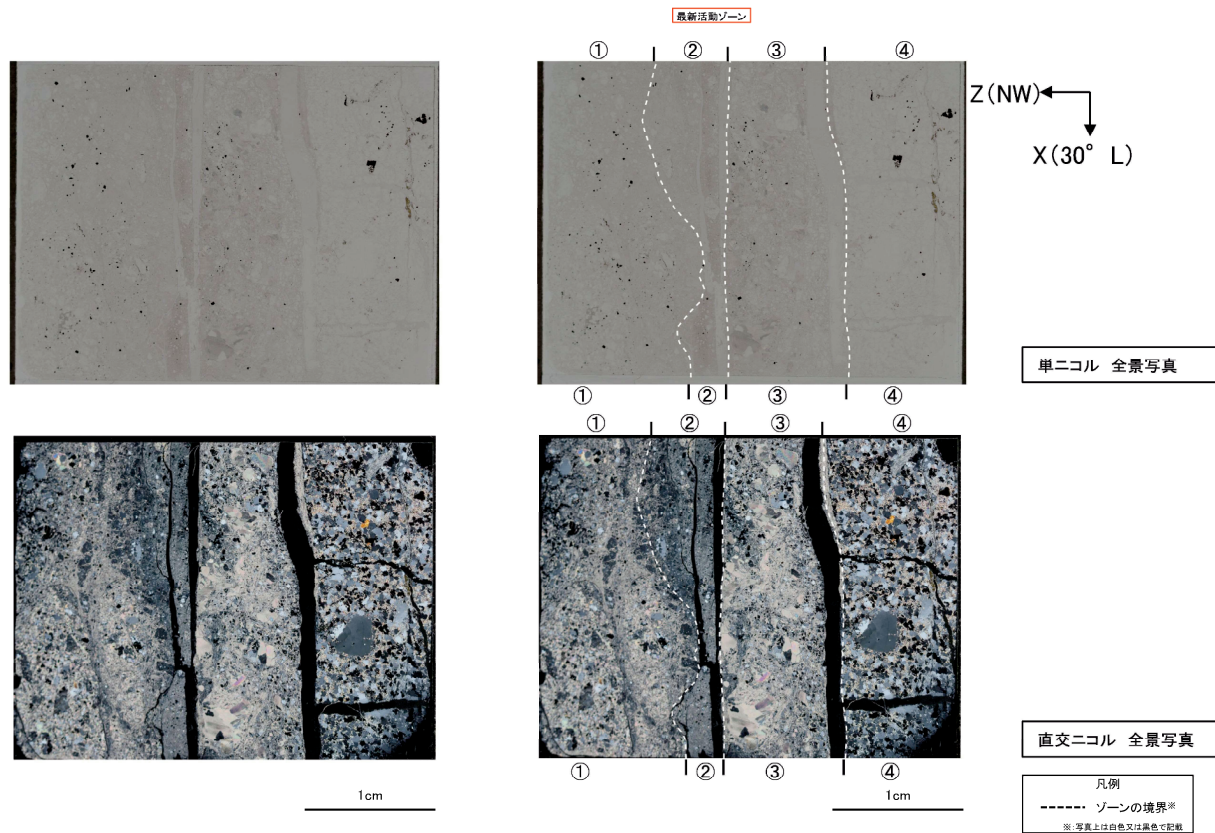
- ・研磨片観察において、CT画像観察の結果と同様に断層面 α 、 β 、 γ が認められる。
- ・断層面 α は細粒部の下端境界で面が凹凸して直線性に乏しいが、不連続部が認められず連続性に富む。
- ・断層面 β は細粒部の上端境界で面が凹凸して直線性に乏しいが、不連続部が認められず連続性に富む。
- ・断層面 γ は面に幅1~2mm程度の細粒部を挟在し、湾曲及び凹凸が少なく直線性に富み、不連続部が認められず連続性に富む。
- ・ボーリングコア観察、CT画像観察、研磨片観察より、細粒部を伴い、最も直線的な深度120.65mの断層面 γ を検討対象の断層面とした。



H27-B-2 深度120.63~120.65m 最新活動面の位置 (No.最-27) を変更

H27-B-2 深度120.63~120.65m 薄片観察 分帯

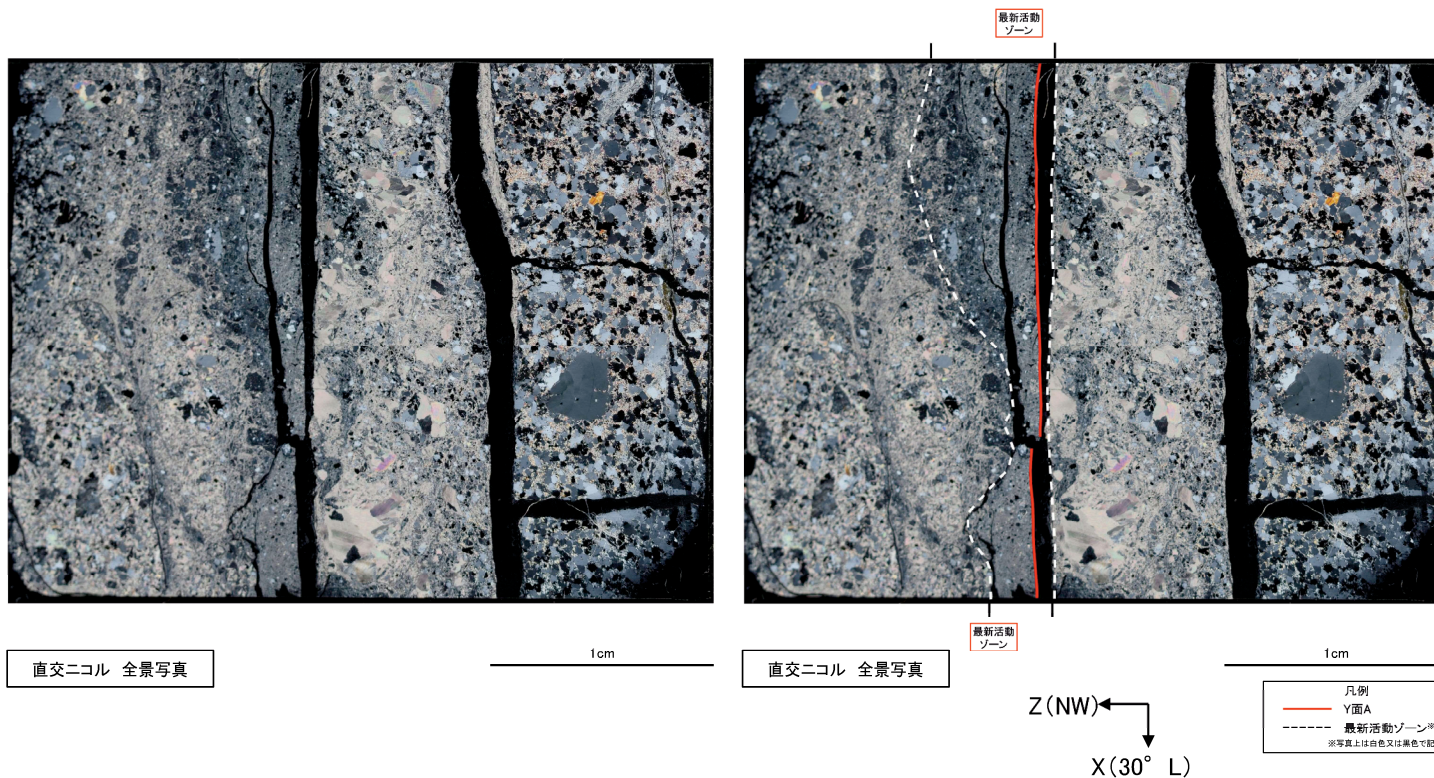
- ・①のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
 - ・②のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。①、③に比べて岩片の粒径が細粒で、量も少ない。
 - ・③のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列が認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。方解石が多い。
 - ・④のゾーンは、健岩部である。
- 以上のことから、細粒化が最も進んだ②のゾーンを最新活動ゾーンと認定した。



H27-B-2 深度120.63~120.65m 最新活動面の位置 (No.最-27) を変更

H27-B-2 深度120.63~120.65m 薄片観察 最新活動面の認定

- ・深度120.65mにおける断層面γ中の最新活動ゾーンでは、他の構造に切られていないY面Aが認められる。その分布を以下に示す。
- ・Y面Aは、直線性に富み、連続性に富む。全て開口している。細粒部を伴う。
- ・Y面Aのみが認められることから、Y面Aを最新活動面と認定した。



※Y面は確実に認定できる部分のみを記載しており、
 割れ目や不明瞭箇所では記載していない

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・最新活動面の深度を12.87mに変更（No.最-28）

【理由】変更後の最新活動面認定方法に基づき実施した結果に変更

・走向・傾斜をN11W75Wに変更（No.最-29）

【理由】最新活動面の変更に伴い，走向・傾斜を再取得した結果に変更

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

a 性状一覧表のコア写真上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-28）

b 走向・傾斜をN11W75Wに変更（No.最-29）

c 最新活動面の深度を「12.87m」に変更（No.最-28）（ただし、フォーム見直しにより数値の記載なし）

d ブロックサンプル上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-28）

H24-D1-2深度12.38~12.97m 最新活動面の深度 (No.最-28) を変更

・変更後の最新活動面認定方法によると、H24-D1-2深度12.38~12.97m の破砕部における最新活動面は12.87mの断層面であるため変更した。

H24-D1-2 深度12.38~12.97m ボーリングコア観察 断層面の認定

- ・ボーリングコア観察において、深度12.86mに断層面 α が、深度12.87mに断層面 β が認められる。
- ・断層面 α は、細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が少なく直線性に富む。また、不連続部が認められず、連続性に富む。
- ・断層面 β は、細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が少なく直線性に富む。また、不連続部が認められず、連続性に富む。断層面 α に比べて、直線性・連続性に富む。

コア写真

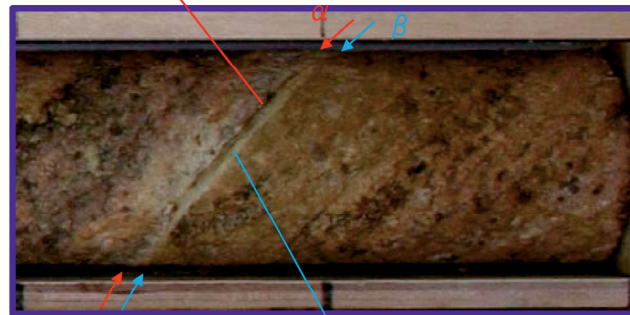


ボーリング柱状図

- 12.38~12.97m: 破砕部 (D-1断層)
- 12.38~12.86m: 粘土混じり礫状部 (Hj)
上端60°、下端45°でともに直線的でシャープに連続。割れ目は殆んど消滅し、著しく軟質化した径10~30mmの岩片からなる。岩片間に20~70°で幅0.5~1mmの軟質な灰白~灰黄色粘土脈が分布する。全体ににぶい褐色を呈する。
- 12.86~12.87m: 粘土状部 (Hc-1)
傾斜45°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を少量含む。やや硬質。灰白~灰黄色を呈する。幅5mm。
- 12.87~12.97m: 粘土混じり礫状部 (Hj)
上端45°で直線的にシャープに、下端45°で不明瞭に連続。硬質。径5~20mmの岩片主体で、岩片間に幅0.5~1mmの粘土脈を少量挟む。にぶい黄褐色を呈する。幅75mm。

凡例
← → 破砕部範囲*
※: 写真上は白色で記載

湾曲及び凹凸が少なく、不連続部も認められない



青枠部拡大

湾曲及び凹凸がより少なく、不連続部も認められない

凡例
断層面

